

# ★★★家読をされた方に聞いてみました★★★

～高根西小学校では～

- ・家読をして楽しかったことは、一人一人の感想を言い合ったことです。みんな違う感想だったので、ビックリしました。また、違う感想をどういう所で感じたのかを聞くのも楽しかったです。(子)
- ・前は、私が本を読み聞かせをしてもらっていたけど、今日は、読み聞かせをしてあげました。たのしかったです。(子)
- ・親が読んだ本が意外な本だったりしたところが、良かったです。(子)
- ・子どもが読んで聞かせてくれました。心を込めて上手に読めました。一緒に同じ本を読むことで、お互いの感じ方、思いをいろんな視点から考えることができます。子ども目線からの意見を聞き、子どもってすごいな…とつくづく感心してしまいました。(親)
- ・娘が読み聞かせをしてくれて、とても成長を感じました。「〇〇〇のところがかわいくてねー！」と楽しそうに話してくれる姿は、とてもかわいかったです。毎日のように読み聞かせをしてくれています。(親)

～久那土小学校では～

\*「いのち」をテーマにした家読リレーノートより

- ・(「いのちのあさがお」を読んで) ちょっとかなしいはなしでした。でも、さいごはいいおはなしでした。(子)
- ・親子で交代しながら読んでいたのですが、途中から親の方は読むのが辛くなり涙がこぼれるばかりでした。仕方なく、終わりの方は、ほとんど子どもに読んでもらい聞いていました。人と人のつながりを学ぶとても良い本でした。(親)
- ・(「葉っぱのフレディ」を読んで) すごく久しぶりに読んで、一番印象的だったのは、ダニエルが言った「いのちは永遠に生きているのだよ」と言うところです。私は、改めて命は大切なものなんだと感じました。そして、命は……のだと考えさせてくれる本だと思いました。(子)
- ・娘の音読を、母と妹で聞きました。あらためて素敵なお話だと思いました。「同じ葉っぱはない」「何一つ同じ経験はない」と言うダニエルの言葉に人も同じだよな、と思いました。フレディ 2 世として続くのですが、命の旅は命のリレーですね。(親)

～高根中学校では～

- ・普段あまり話をしないような会話ができて良かった。また、親と同じ本を読むことで、自分の考えと大人の考えの違いを理解することができた。あまり家では本を読まないの、家読は、本を読もうと思う良いきっかけになった。図書だよりもおすすめの本がのっているの、読むようにしていきたい。(子)
- ・本に目を向けるようになり、読むきっかけにもなりました。親子で本について話すことも増え、とても楽しく取り組むことができました。いま子どもが興味のある本についても知ることができ、図書だよりも、どんな本があるのか、どんな本が人気なのか書かれているので、楽しく読ませてもらっています。(親)
- ・お互い忙しい時間が多くて、普段自分のオススメの本の話をしたり、一緒の本を読んだりすることができなかったけれど、家読をして、私のオススメの本を母に読んでもらってうれしかったです。普段は本の話をしなかったけれど、家読の取り組みで本の話が家の中でも出るようになったので、とても良かったです。(子)
- ・忙しい日常の中で、我が家では、親子で読書をする機会は、ほとんどありませんでした。夏休みに「家読」を娘のおすすめの本で取り組みました。中学生の娘とは、お互いに忙しくコミュニケーションの時間も難しいのですが、読書という共通の時間を過ごし、親子のコミュニケーションが本を通して広がったように思えます。どんな本でも、親子で同じ本を読むことを、たくさんの人におすすめしたいです。楽しい時間が増えます。(親)

\*高根西小学校、久那土小学校、高根中学校に御協力をいただき、児童・生徒・保護者の方々のご感想をお寄せいただきました。ありがとうございました。

# 家族みんなでおうちで読書



平成 26 年度「うちどくポップ展」最優秀賞作品

<問合せ先> 山梨県教育庁社会教育課  
 〒400-8504 甲府市丸の内一丁目 6-1 TEL 055-223-1773 FAX 055-223-1775

山梨県教育委員会



# 「家読（うちどく）」ってナニ？



「家読（うちどく）」という言葉、どこかで聞いたことはありませんか？最近、家読に取り組み始めている学校や公共図書館が山梨県内にも増えてきています。なぜ、「家読」に取り組むのか、どのように取り組んだらよいか、また、実際に家読をされた方々のご感想もご紹介します。



## 家読（うちどく）って、何ですか？

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「家読（うちどく）」の基本です。



## 家読（うちどく）をすると、何かいいことがありますか？

家読の期待については、いろいろとされています。識字力、読解力、表現力や学力の向上はもちろんのこと、何よりも、家読をとおし、家族とふれ合うことで、子どもたちの情緒の安定が得られることが、期待されています。子どもたちの情緒の安定は、家庭内によいサイクルを生むことにもつながります。

また、本をコミュニケーションツールとすることで、親として伝えたいことを自然とわが子へ伝えることもできるのです。

かぞくって、あったかいな～  
いっしょにいと、安心するな～  
家族に大切にしてもらっているな～

→自尊心が育つことに。  
自分のことを大切にする子に。



本読みが上手になったな。  
いつの間にか、自分の考えをしっかりとつ  
ようになっていたんだな。成長したな。

→わが子の成長を確認できたり、  
よさを認めたりする機会に。

家読のよさは分かったけど、  
ゆっくりできる時間がないよね…  
それに、あまり読書しないし…。



大丈夫！できることからやってみるにゃん

まずは  
10分から



夕食後や就寝前の10分程度、「家読」してみませんか。「本は苦手」という方でも、絵本や児童書、図鑑から始めてみましょう。子どものときには気づかなかつたけれども、大人になった今だからこそ感動したり、ほっとしたり、思わず笑ってしまったり、新たな発見をするかもしれません。子どもの頃に好きだった本を子どもと一緒に読んでみるのも楽しいですよ。

子どもと図書館や書店へ出かけて、一緒に本を選んでみませんか。

子ども自身が選ぶ本から、興味や趣味など、子どもの世界が伺えます。本の選び方が分からない子どもには、映画やドラマになった本などを紹介したり、一緒に図鑑を開いたりするのも一つの方法です。また、「お話に出てきた料理と一緒に作ってみる」「図鑑をもって公園に遊びに行ってみる」など、読書を通して知ったことを実際に体験することで、別の感動を味わうことができます。

図書館・書店へ  
レッツ・ゴー！



子どもが「字が読めるようになったから」といって、読み聞かせをやめていませんか。

文字を読めても、お話を楽しめるとは限りません。また、一人で本が読めるようになっても、お話を聞くよろこびは別のものです。小学生には小学生の、中学生には中学生の読み聞かせの楽しさがあります。子どもに読んでもらうのも楽しいですよ。家族のふれあいの時間は、子どもの家族への信頼を深めます。さあ、読み聞かせしませんか！

みんないっしょに  
読み聞かせ♪

